

若者の声

きつい練習も
仲間がいれば

松下芽依 中学1年生

(荻北町)

私は、水泳をしています。競技を通して、仲間

の大切さを学びました。私は、3年生が出場する最後の大会でメドレーリレーのアンカーを任されました。決まった当初は、3年生と一緒に泳げてうれしかった。自分ので失格になったらどうしようと不安でした。しかし、練習を重

ねるうちに、その不安もなくなってきました。大会当日、メドレーリレーが近づくにつれて緊張が増しました。飛び込み台に立ったときは足が震えましたが、「3年生のために」と強く思い、飛び込みました。ゴールに向かって泳

ぎ、自分の力を全て出し切ることができました。3年生という仲間がいなければ、メドレーリレーを泳ぐことはできず、大きな達成感を得ることもなかったと思います。

その後、3年生は引退しました。にぎやかだった練習がとてさみしくなり、3年生の存在の大きさを感じました。

水泳は個人競技ですが、仲間と泳ぐことで、自分一人では出せないタイムを出すことができ、きつい練習も乗り越えられます。

思い返すと、3年生は私が失敗したときに慰めてくれたり、心配して話しかけたりしてくれました。私も3年生を真似し、周りの仲間に声をかけら

れるようになりたいです。大切な仲間たちと、これからも水泳を頑張っていきたいです。